

お題を決める

- 0: 出身地は?
- 1: 好きな食べものは?
- 2: 子どもの頃、好きだった教科(勉強)は?
- 3: 趣味(好きなことは)は?
- 4: 好きな芸能人(またはスポーツ選手)は?
- 5: 行ってみたい外国は?
- 6: お薦めの映画(またはテレビ)は?
- 7: 誕生日(〇月〇日)は?
- 8: 休日にしたいことは?
- 9: ちょっと「自慢」できることは?

※これは大学生用の質問項目です



計算する 3+3+5=11

11の一の位をとって「1」のお題



※聞きながら聴くことがルールです



のぞみ 希実 先生

(図参照…大学生用質問項目)。「アドジャン」のかけ声に合わせてメンバーが好きな指を出し、「お題」を決めます。例えば、3人組で、3人が全員人差し指を出したならばその指をたして「3」、3人が全員パーを出したならばその指をたすと15なので、「15」の項目が「お題」となります。アドは「たす」という意味、メン

バー同士がジャンケンの要領で指を出し、その指の数をたして「お題」が決まるため、「アドジャン」の名がついています。「お題」が決まったあと、メンバーが順番に答えていきます。その際、他のメンバーは、話し手を見て聞きながら聴くことがルール。質問したり、否定的な反応をした

りすることを禁止事項としてあらかじめ伝えておきます。メンバー全員が順番に答え終わったら、再び、「アドジャン」のかけ声に合わせて指を出す…を繰り返します。実施時間は2分程度。その短い時間でも、各グループで5〜6問の「お題」に答えることとなります。一度、アドジャンを終了し、例えば、「みんな聞きが上手だね」「ここは

らかじめ伝えておきます。メンバー全員が順番に答え終わったら、再び、「アドジャン」のかけ声に合わせて指を出す…を繰り返します。実施時間は2分程度。その短い時間でも、各グループで5〜6問の「お題」に答えることとなります。一度、アドジャンを終了し、例えば、「みんな聞きが上手だね」「ここは

子ども同士の関係づくり

～「花火」を打ち上げる&火を灯し続ける～

前号の「教師と子どもの関係づくり」に続き、本稿では「子ども同士の関係づくり」に焦点を当て、私の考えを整理すると共に、お薦めの実践を紹介します。



名城大学大学院 大学・学校づくり研究科および教職センター准教授

曾山 和彦

そやま かずひこ 群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士課程修了。博士(社会福祉学)。東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導主事、管理主事を経て現職。学校心理士。ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校におけるカウンセリングを考える会代表。

著書に「時々、オニの心」が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキルトレーニング」、「時々、オニの心」が出る子どもにアプローチ2 気になる子に伝わる言葉の「番付表」(明治図書)、編著書に「気になる子への支援のワザ」(教育開発研究所)、「特別支援教育に生かせるカウンセリング」(ぎょうせい)、「教室でできる特別支援教育 子どもに学んだ「王道」ステップ ワン・ツースリー」(文溪堂)ほか多数。

1 子ども同士の関係づくりのワザ

学校現場で活用しやすいグループアプローチ

学校現場で活用しやすいグループアプローチとして、「構成的グループ・エンカウンター(Structured Group Encounter、以下SGE)」「ソーシャルスキル・トレーニング(Social Skills Training、以下SST)」「対人関係ゲーム」「体験学習(Tグループ)」等があります。いずれも実践的なワークシートが掲載された関連書籍が多く、出版社から刊行されています。私自身は、病弱養護学校勤務時代に出会ったSGEの魅力に惹かれ、その後、國分康孝先生(東京成徳大学名誉教授)に師事したことからSGEが実践・研究上の大きな柱になっています。また、通常学級における特別支援教育の実践・研究を進めるうえで、SSTの有効性にふれる機会が多くあったことから、SSTも欠かせない柱になっています。以上のことから、本稿では、SGE&

2 関係づくりの「花火」を打ち上げる

短時間&ゲーム感覚で楽しめる演習の活用

SSTを活用した子ども同士の関係づくりのワザを紹介します。私は大学講義の際に、3〜4人のグループをつくらせて演習を進めることがありますが、その際、メンバー同士、「相手への関心」がもちやすいよう、ウォーミングアップとして活用している演習が「アドジャン」です。本稿では、現在、私の中でベストワン演習となっているアドジャンを紹介します。皆さんは、1〜6までの番号に割り振った質問項目を用意し、メンバーがサイコロを振って、出た目に沿って質問に答える「サイコロトーク」を「存じではないでしょうか。アドジャンはサイコロの代わりに、ゲーはゼロとして1〜5までの指の数を使います。また、あらかじめ、0〜9までの番号に割り振った質問項目を用意します

●「よさっぴタイム」に取り組んでから学級の雰囲気がとても和やかになり、私自身、笑顔で活動の様子を見ることができ、大好きな時間になっています。いちばん嬉しいのは、生徒の感想の中に「普段話せない子と話ができよかったです」という言葉がよく出てくることです。どうしても仲良しグループのかわりが多いが、さまざまな生徒たちにかかわりをもたせるよい

本稿の終わりに、依佐美中の生方の声をいくつか紹介します。

4 「花火」を打ち上げ、灯し続けて

～依佐美中の先生方の声～

とができた秘訣はどこにあるのでしょうか？ 私自身、大いに興味関心のあることであり、今後考察を進め、執筆や学会発表等を通してさまざまに情報発信していきたいと考えています。

●「よさっぴタイム」を継続しているSSSTの大切さが本当によくわかります。生徒がかかわりの「型」を覚えているので、お互いに認め合う空気があります。また、「型」はあるのですが、活動の中で生徒の笑顔は本物です。

●しっかりとしたルールの上で行う「よさっぴタイム」を導入し、4年間継続して取り組んできたことが、学校全体の落ち着きを生んだと思います。さまざまに問題を抱えた生徒ですら、「よさっぴタイム」では溢れんばかりの笑顔で活動を楽しんでいる、そのような生徒の姿が忘れられません。

●「よさっぴタイム」のおかげで、教科の授業でも「よさっぴトーク」を用いてスムーズに行えることを日々実感しています。

機会になっています。

アドジャンで新しい「お題」を決めるのではなく、さつき、お互いに話したこと・聴いたことについて、わいわいがやがやとしゃべっている。時間は2分間。では、どうぞ」と声をかけます。

この2分間で子どもたちは「話すのが好きな自分がいた」「A君は笑顔がとっても素敵」「自己・他者理解」、すなわち、「自己への出会い（エンカウンター）」を目指すSGEになります。「子どもは遊ぶが如く。しかし、教師としての私はねらいをもち、遊んでいない」というグループアプローチ：これこそが、今、私がもっとも学校現場で打ち上げたい、「関係づくりの花火」です。この「花火」を見事に打ち上げた学校が愛知県にあります。その学校は刈谷市立依佐美中学校（津田節代校長。以下、依佐美中）。実践研究として、私が4年間、スーパーバイザーとしてかわり、平成26年10月15日の公開研究発表会にて、全国各地から集った500名の参加者に「大輪の花

火」を披露しました。「花火」の名は「よさっぴタイム」。毎週1回、短時間行っているグループアプローチの名称です。

3 「花火」の火を灯し続ける

～授業展開に短時間ペアグループ活動の導入～

依佐美中の実践が素晴らしいのは、「花火」の火が消えないように灯し続けている点です。具体的には、各教科等の授業展開に、



4月、新しいクラスになっても大丈夫。ネームゲームでアイスブレイク。

「よさっぴトーク」と名づけた短時間のグループワークを取り入れていることです。「よさっぴタイム」で育んできたソーシャルスキル、自己理解をベースとし、笑顔で活発に「よさっぴトーク」を行う生徒の姿は、研究発表会当日にも見られ、参観者から驚き、感動の声が多く、感想として届けられたほどです。私は、これまでも多くの学校にスーパーバイザーとしてかわり、共に実践研究を進めてきました。ここまで見事にグループアプローチと授業内でのグループ



アドジャンのあとのフリートークも笑顔があふれます。

ワークを連動させ、成果を挙げた学校は依佐美中が初めてです。さらに、依佐美中の先生方に大きな拍手を送りたいのは、各学年8学級前後、全校生徒700名を超える規模にもかかわらず、校長先生のリーダーシップのもと、教師集団が「一枚岩」となって実践を展開していることです。学校によっては、教師の価値観がぶつかり続け、すり合わせがうまくいかず、一枚岩になりにくいという声も多く耳に届きます。そうした困難さをクリアし、「花火」の火を灯し続けるこ



ゴジラとゴリラ、よさっぴタイムを続けていると、男女のペアでも自然にできます。

「よさっぴタイム」が身体になじんだ生徒は、授業中の「よさっぴトーク」による班活動もとてもスムーズで、本当により雰囲気の中で授業を進めることができます。

皆さん、どうでしょう？ 依佐美

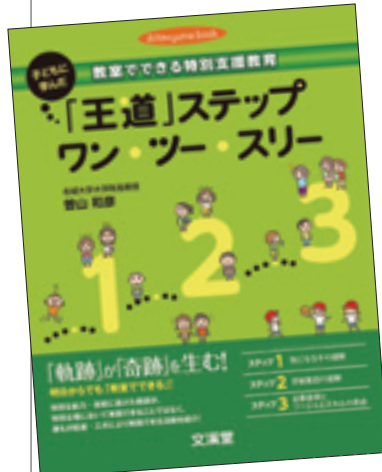
中の実践に続きませんか？ 子ども同士の間関係づくりのみならず、教師と子どもとの関係づくりの具体方策として、今、私がいちばんにオススメしたい実践です。

（参考引用文献）

● 國分康孝 1999年エンカウンターで学級が変わるショートエクササイズ集 図書文化 112

曾山先生著書のご紹介

「軌跡」が「奇跡」を生む！明日からでも「教室でできる」！



教室でできる特別支援教育

子どもに学んだ

「王道」ステップワン・ツー・スリー

Contents

- 第1章 「教室でできる特別支援教育」の基本的な考え方
- 第2章 教室でできる特別支援教育「王道」ステップ1・2・3
- 第3章 教室でできる特別支援教育「実践」へのアプローチ
- 第4章 紙上再現 自尊感情とソーシャルスキルを育む授業

判型 B5変型判
ページ 120ページ 2色刷
定価 本体1,600円+税
発行 文溪堂